

旅の後半はスコールに遭ったものの、太陽の門から全員無事にマチュピチュ遺跡へ入場し、最高の満足度でインカ道トレック終了。最終日の登山はマチュピチュ遺跡の正面に有るとんがり帽子風の山、ワイナピチュ山(2750m)。例年通り麓のマチュピチュ村を早朝 5 時半のバスで遺跡へ。数年前迄ワイナピチュの入山は当日先着 400 名限定でしたが予約制になり、以前の様な殺気立った雰囲気はなし。

遺跡見学を楽しんだ後、サンクチュアリ・ロッジで贅沢なバイキング昼食、そして午後 3 時にマチュピチュ村へ下山。ビスタドーム号の車中で催されるファッションショー&即売会を楽しみながらクスコへ向かいました。



(朝焼けのペロニカ連山 5/15 日)

○プユパタマルカ(3 日目)

点在する遺跡に魅了され、美しく知的に設計されたインカ時代の石組道や岩の裂け目を繰り抜いたトンネルを通り、インカ道トレックを堪能。所で、今年は例年になく緑が多いと思っていたら、案の定、午後から空模様が怪しくなり数次にわたるスコールの襲来。思えば 4 年前、この幕営地で 3 時間半に及ぶ雷の襲われたなどと懐古にふけり Good Night。



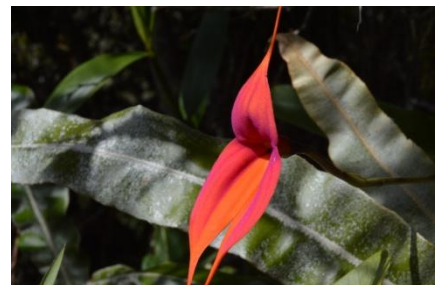


○マチュピチュ遺跡(4日目)

夜半の雨は上がったものの雲が多い重めの天気。ペロニカ連山は朝焼けで真っ赤、谷を隔て反対側の聖山サルカントイ山(6271m)の頂きは雲に隠れ一寸残念。コック、ポーターに感謝をこめて心付けを渡し、標高差 1100mの階段状急坂を一気に下りウイニャワイナへ。さらに進む事2時間で太陽の門(インティプク)に到着。ついに憧れの世界遺産No1 マチュピチュ遺跡到達。毎度のことですがここに到達すると何時も天気は時雨模様、心は感激の涙模様！



(聖山サルカントイ 5/15 日)



○ワイナピチュ山登頂(5日目)

ワイナピチュ山は全行程2/3は補助ワイヤーの備えも有る普通のジグザグ道、上部1/3は急峻で一方通行。断崖に作られたインカの石垣が頂上近くまで続きます。背筋も凍る深く切れ落ちた絶壁のスリルは有るものの、全員幾多の日本の山をこなしてきたお達者な皆様故トレックの総仕上げ、3時間の天空登山を満喫していました。



(ワイナピチュ山頂上 5/16日)



次の天溪ツアーは6月19日出発「花のスイス・アルプスハイキング9日間」、北米に移り7月10日出発「花のカナディアンロッキー9日間」、そして再び欧州へ戻り7月19日出発「夏のアルプス・オートリート11日間」と続きます。

記 天溪 赤沼

<追記>

今年1月「ミルフォードトラックとマウントクック11日間」に参加された長野市の小林様の短歌が「山と溪谷社6月号」に掲載されましたのでご紹介させていただきます。

満天の稜線浮かぶアオラキの
夜空に輝く南十字星